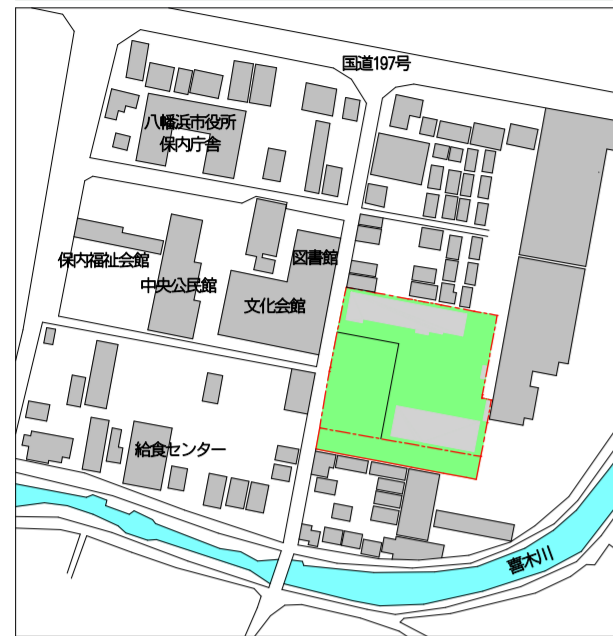


敷地周辺との関係



計画地は旧保内町の中心部で、交通の要所にある保内庁舎、図書館を併設した文化施設「ゆめみかん」、保内中央公民館、保内保健福祉センターなど、公共施設が集中している地区にあります。日常の情報や文化を発信してきたこの地に保育所と児童センターが加わることでよりまちのなかのひとつの活動拠点として「こども」をキーワードにした展開が期待されます。

歴史を継承した新しいまちのシンボル

東洋紡績赤レンガ倉庫、愛媛蚕種工場や洋風建築などが点在する地域の歴史・文化の継承を意識し、庁舎や文化会館、企業工場、住宅などの建物に囲まれた敷地で、地域の人々が愛着をもて、気軽に集うことのできる保内地区の新しいシンボルを目指します。

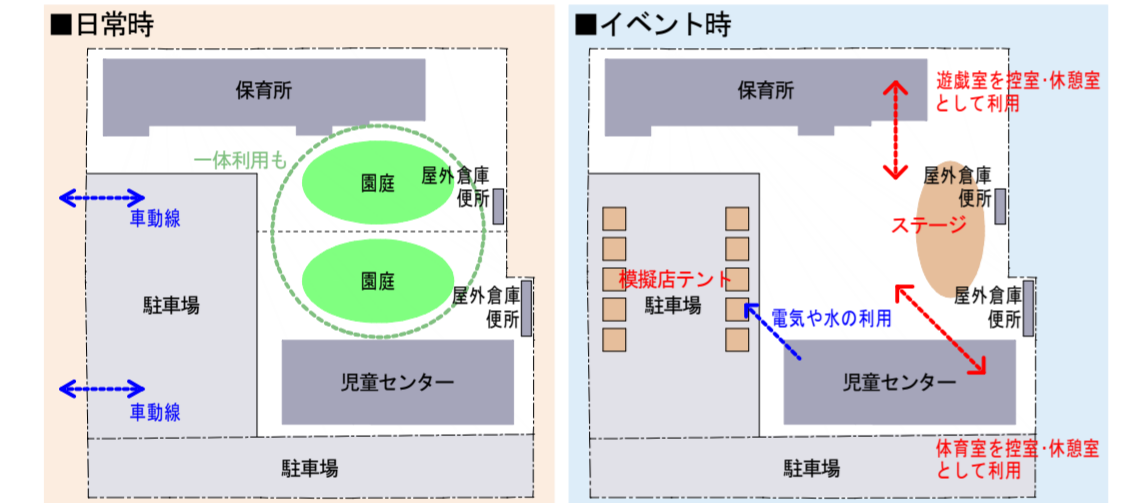


～町並みの継承～

- ←からみレンガ
レンガ調の外壁や歩道の舗装をからみレンガ風に
- ←青石
舗装やピオトープの池に利用
- ←縦羽目板
縦羽目板張り調の外壁を基本にした外観
- ←もっさんろーど
保育所側の歩道の一部を「もっさんろーど」風にして遊び心を

園庭の使い方

日常時も災害時も自然と皆が集まる場所

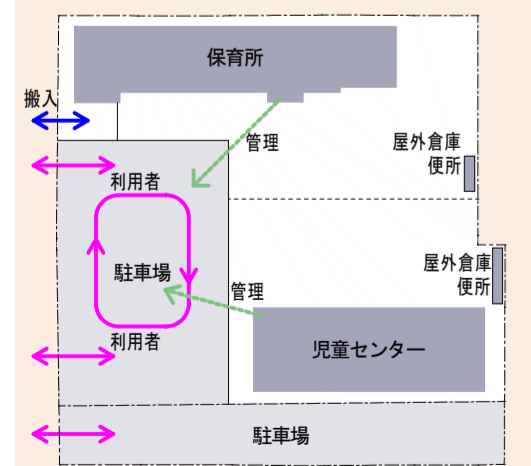


- ・地域の中心的な施設が集積している地区での計画であり、人々の多くの視線の中で子供たちが遊ぶこととなり、新しいまちの風景となります。又、イベント時に相互が協働して利用することで、地域全体に賑わいが展開していきます。
- ・園庭は緑と遊具・ベンチのある憩いの場とすることで近隣の人々・親子連れ・学生などがくつろげる空間となります。
- ・道路と駐車場と園庭の境界を明確にすることで、複雑な車と人の動線が整理できます。
- ・園庭には屋外倉庫・便所・水場・電源を配置することで、運動会や夏祭りなどのイベント時にも利用しやすい計画とします。
- ・庁舎や文化会館に併設となる施設でもあり、災害時にも対応できる計画とします。

動線・植栽計画

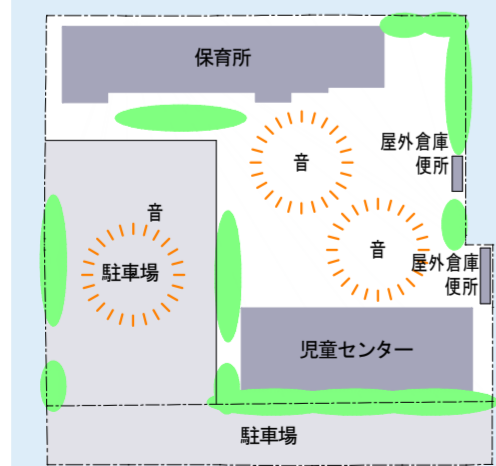
周辺環境に配慮した計画

利用者動線と搬入動線の分離



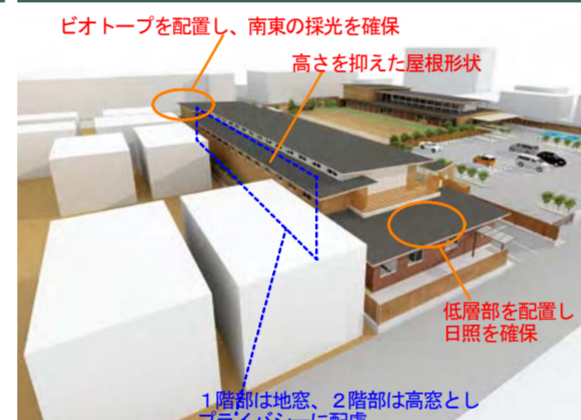
- ・調理資材搬入と利用者のアプローチを明確に分離
- ・送迎時の交通渋滞を避けるために駐車場入口は2か所設け、それぞれ職員室・事務室から見えるように計画

防音・植栽計画

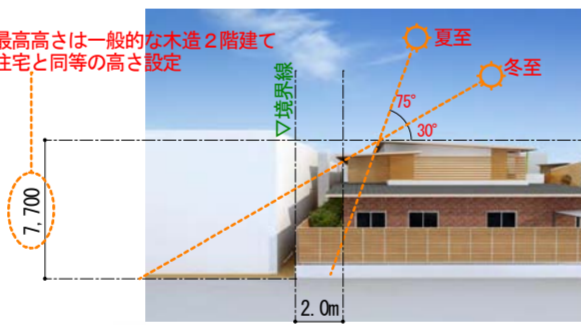


園庭及び駐車場を建物及び植栽で囲むことにより、周辺に対する騒音に配慮します。また、境界には高木を植えないことで、隣接宅地への日照に配慮し、常緑中木を植栽することで視線をやわらかに遮ります。

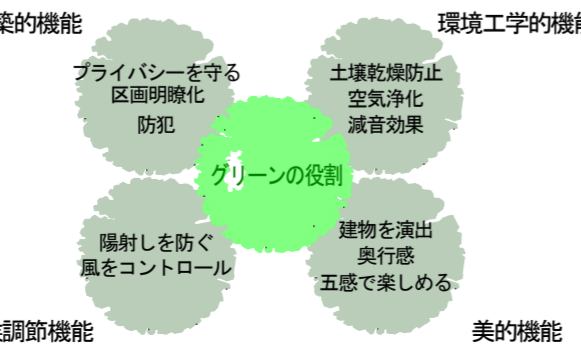
周辺環境への配慮



北側住宅には境界より2mの空地を取り建物を配置し、東側のピオトープによる空地や、西側の調理室部分を1層とすることにより圧迫感を軽減します。

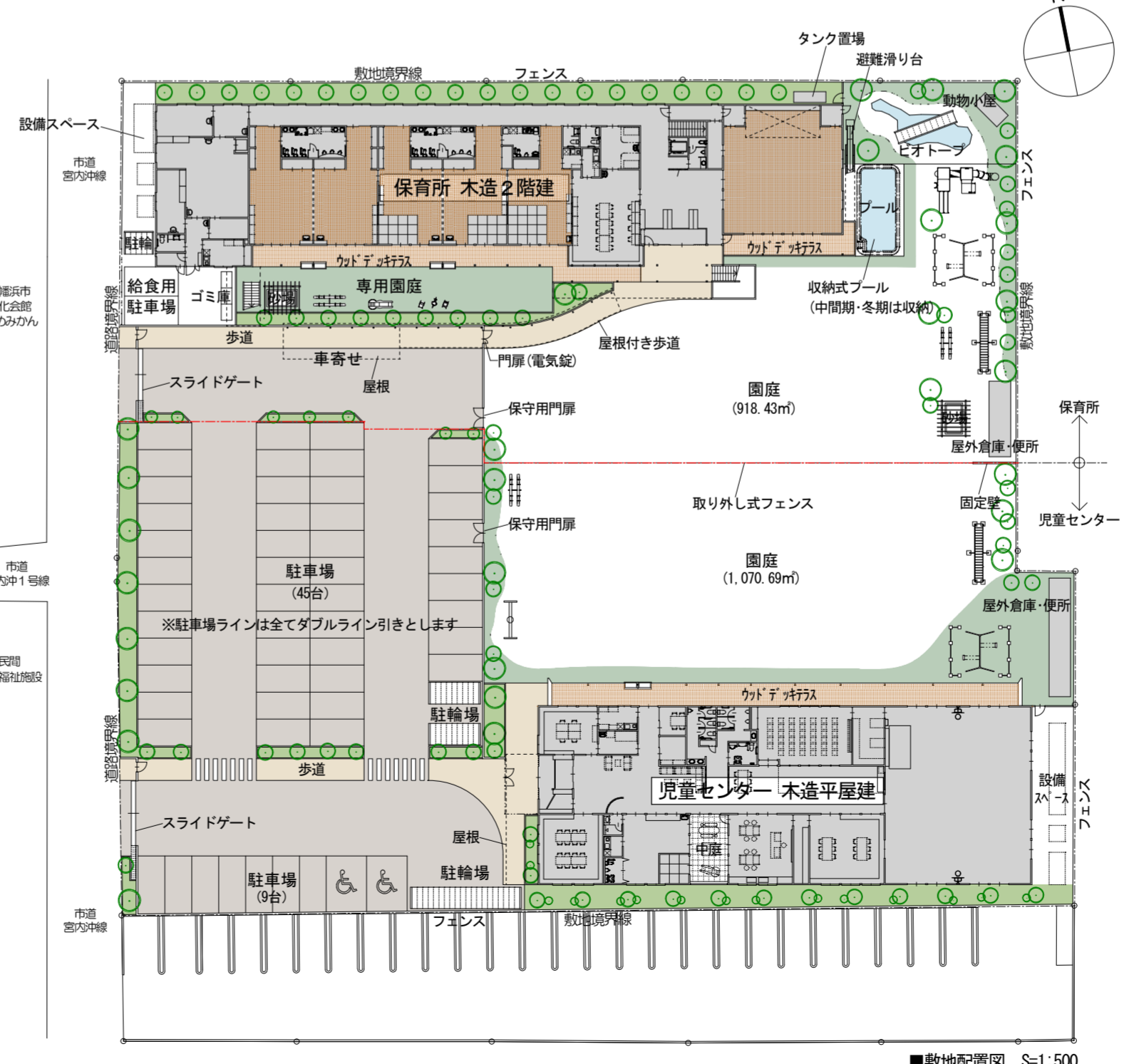


植栽は害虫に強い樹木を選定するほか、過密になり過ぎないように注意し風通しを確保します。道路側は見通しが効くよう高さH=0.4m程度の低木とします。



全体配置について

- ・保育所は保育室が南採光となるよう敷地北側としました。児童センターは敷地南側とし、利用が多い諸室を南採光としました。園庭は両施設の中央とし、仕切りフェンスを取り外すことにより、園庭が一体利用できる計画としました。又、双方の遊具は境界側に配置し、園庭の中央が広場となる計画としました。
- ・両施設とも利用者の安全を守るため、全体をフェンスなどの柵で囲うとともに、幼児が不用意に施設外に出ていかないよう入口扉（電気錠）を設けます。又、アプローチにおける歩車道分離と全体のスライドゲートによる管理、さらに保育所調理資材搬入口が分離となる計画としました。



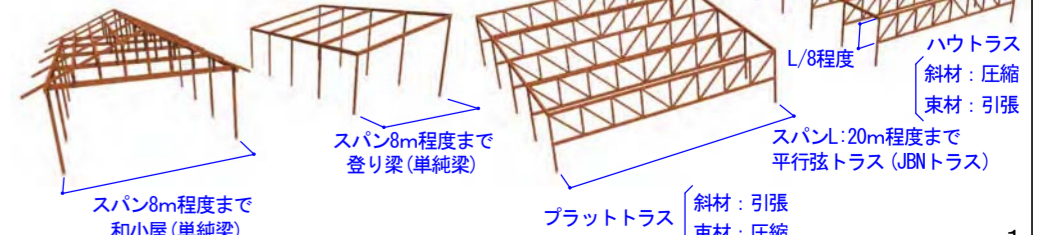
外観計画

八幡浜市に現存する「日土小学校」「日川之内小学校」のようなシンプルで、明るく木の温もりのある施設を念頭に置いて、失われつつある「地方都市の美しい風景」を取り戻しつつ、こどもたちの心の拠り所となるよう、のびやかな流れ屋根を特徴とし、親しみのもてる木目の外装とした「大きな木の家」をイメージさせる外観としました。また、昔ながらの和風の建築言語で成り立ちつつも、現代建築のリズムをあわせ持ち、新しく独自の風景を創出することも試みました。

構造計画

計画をする際に、材料としての木材の選択に当たり、コスト面で優位性のある一般流通材で計画し、地域環境・経済への配慮から地域産の木材を使うように幅120mmを基本とした小・中断面材で計画しました。

保育所の2階床は、単一直線材を用いた単純梁構造で支持します。（平行弦トラスや合板充てん梁は手間がかかり、コストアップになるだけでなく梁成が大きくなるため1階の天井高(天井フック)が十分にとれないといった不利な面があります）単純梁で支持するために梁スパンは製材≤5.40m、集成材≤8.19m、梁ピッチは1.0m以下とし、梁に構造用合板を直張とし、剛な水平構面を造ります。屋根架構は単一直線材による単純梁の他に勾配部分の天井フックを利用したトラス構造形式を採用します。又、小・中断面材を使用し、住宅用プレカット機械での加工が可能な形式とすることでコストダウンを図ります。

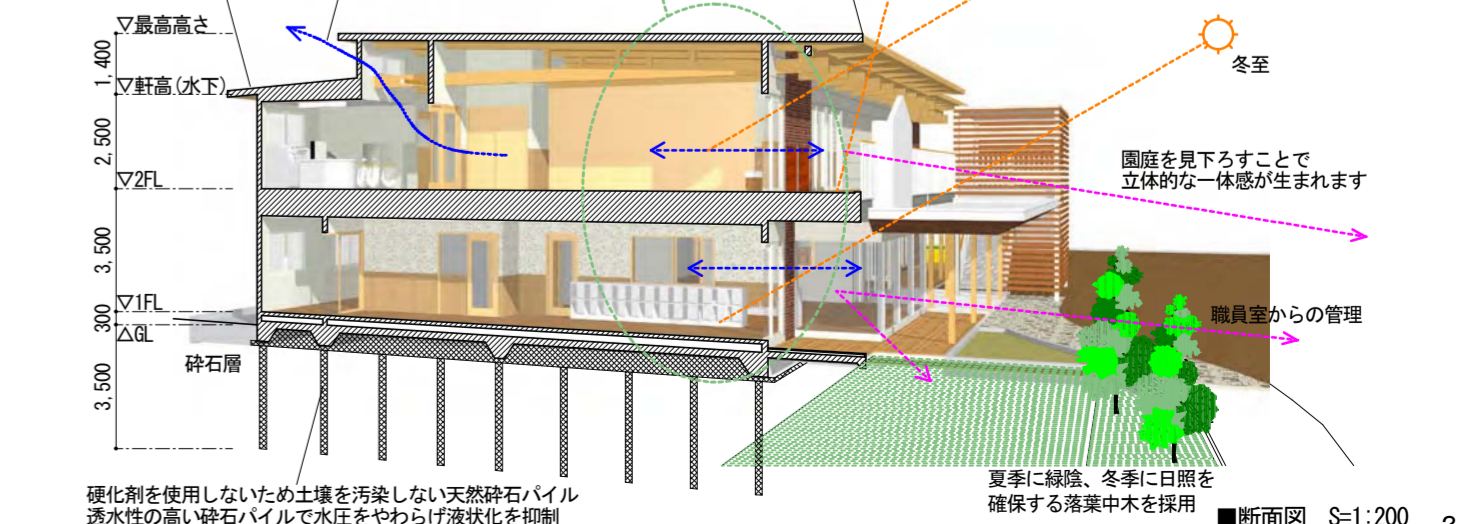
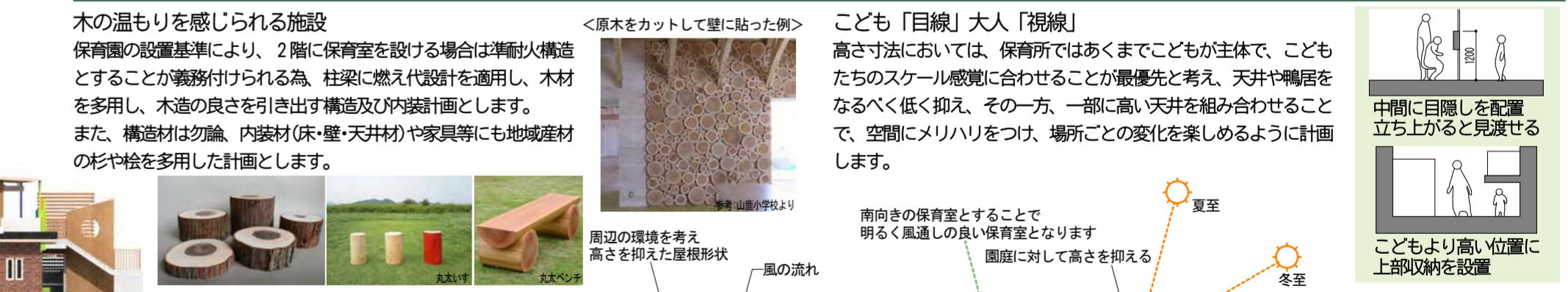
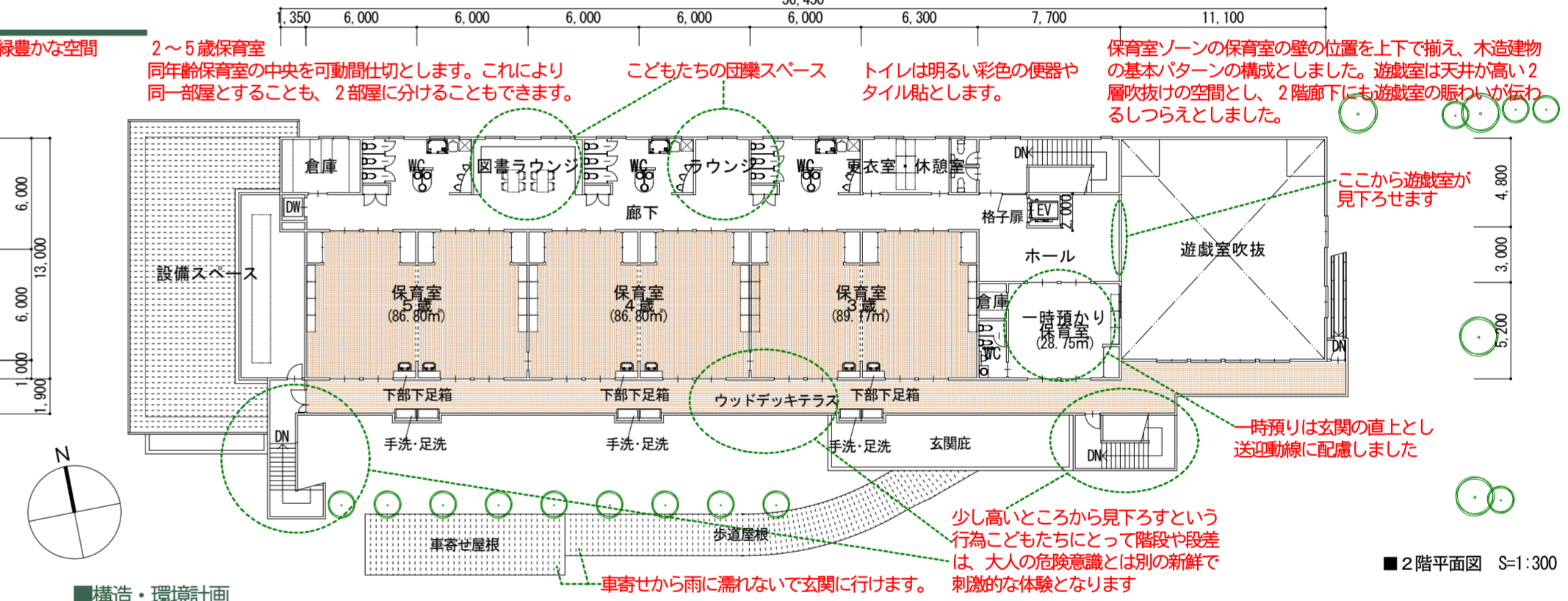
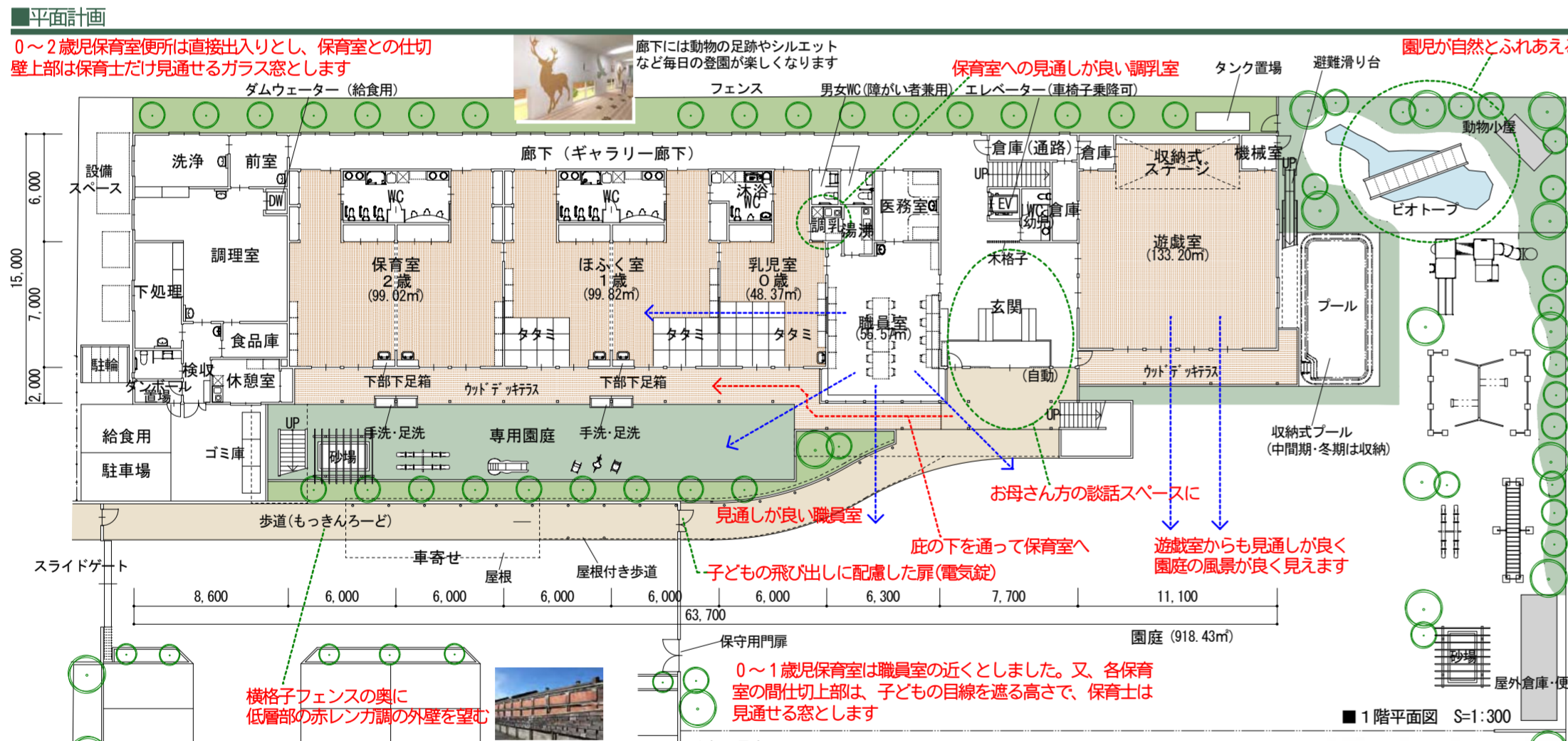
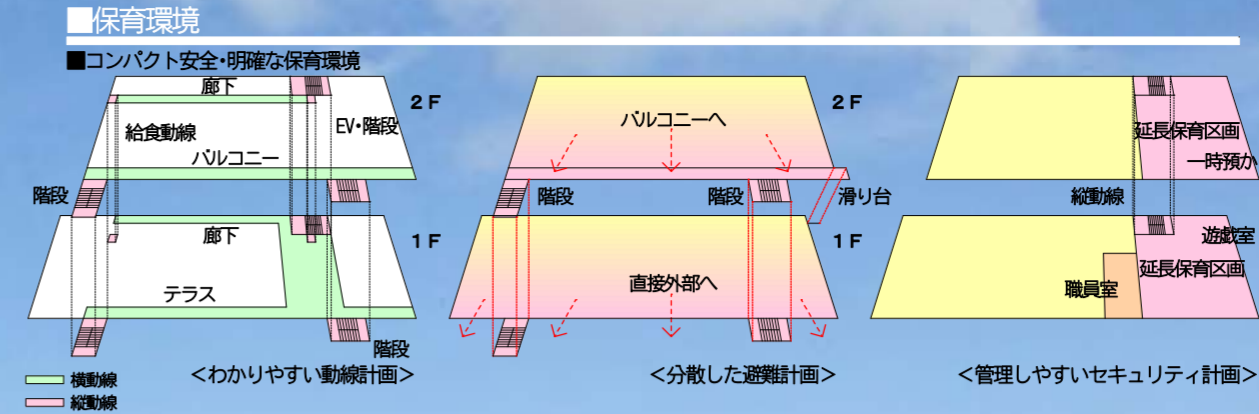


敷地配置図 S=1:500

保育所のデザインについて

保育所の内部構成は、生活することもにも保育士にも安全で利用しやすく、どこに居ても見守りができることを基本とし、明るい建物創りを目指しました。建物の中心に正面入口と職員室を置き、園庭と繋がる東側を遊戯室（動空間）とし、西側を2層とした保育室（静空間）群とすることで、保育室へのこどもたちのスムーズなアプローチと保育室への南採光、又、職員室からアプローチや園庭の見守りなど、機能性と安全に重点を置いた平面計画を目指しました。

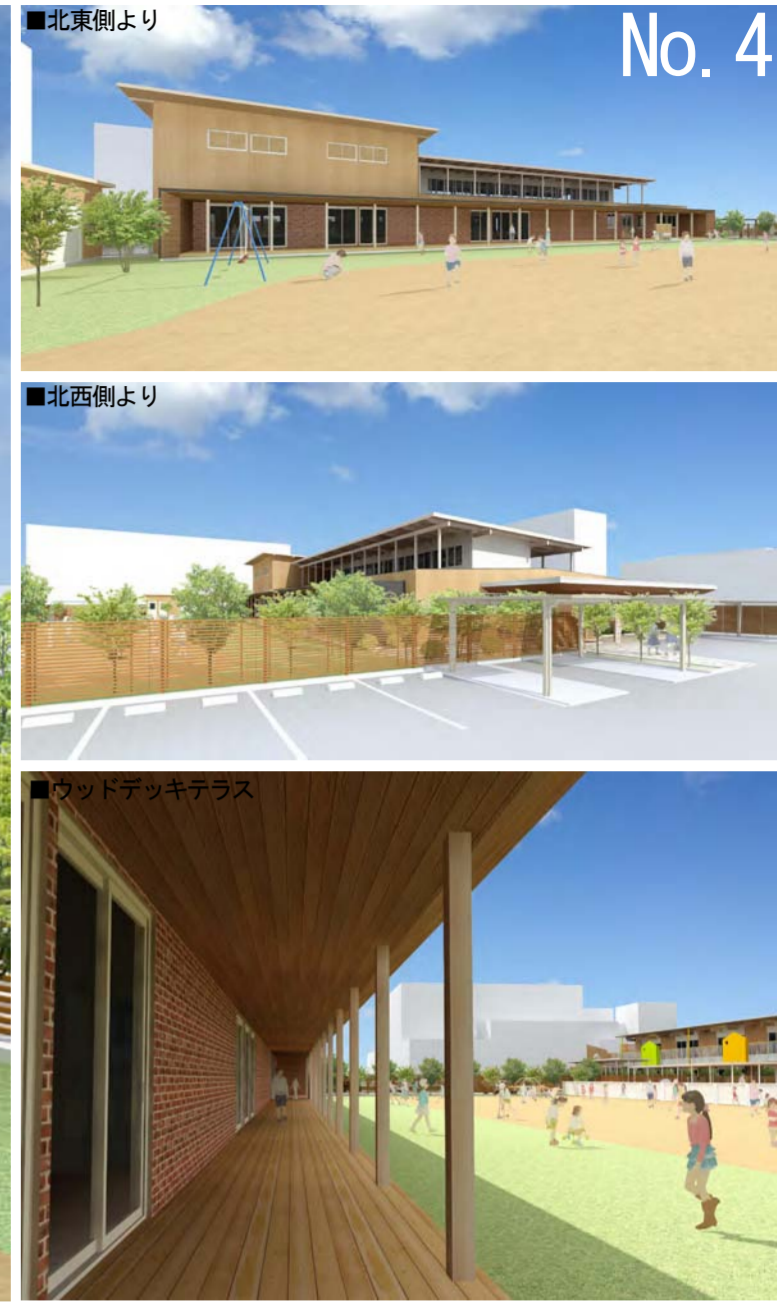
建物概要	
用地面積	2,831.09 m ²
構造・規模	木造 2階建
床面積	1階 874.91 m ²
	2階 578.75 m ²
計	1,453.66 m ²
(テラス・バルコニー除く)	



児童センターデザインについて

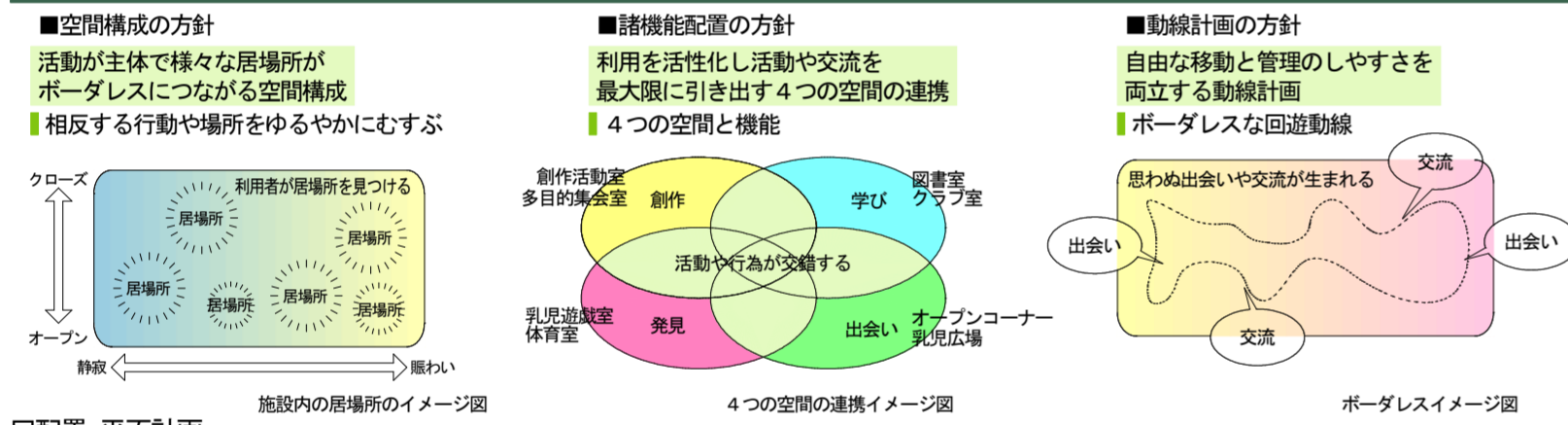
児童センターは、建物中央にコミュニティロード(休憩・交流ホール)を設け、世代間交流を積極的に誘発することも館を創り出します。正面入口に繋がるコミュニティロードは巾4.5mで奥行き28.6mの大空間とし、必要諸室がそれを取り囲むような平面構成としました。北側園庭側にはテラス(ウッドデッキ)を設け、園庭とセンター建物が融合する半屋内空間としての役割と、雨天時の外部遊び空間の役割を持たせる構成としました。

建物概要	
用地面積	3,755.02 m ²
構造・規模	木造 平屋建
床面積	730.65 m ² (テラス・中庭除く)



No. 4

様々な活動と出会い



□配置・平面計画

① まんなかに136㎡の憩いの空間中央ホール

- 幅28.6m、奥行4.5mの大空間で、利用者が相談、休憩、学習や屋内イベント(展示、フリーマーケット)など多目的に利用できるスペースを計画しました。
- 上部に連続のハイサイドライトを取り、広がりのある外部空間のような雰囲気のあるホールとなればと考えます。
- ホールに面して必要諸室が展開しますが、諸室の仕切り壁はガラス窓を多用し、ホールから各室の賑わいを感じられる計画としました。

② 園庭と繋がる半屋内ウッドデッキテラス

- 建物園庭側幅一杯の屋根が掛かったウッドデッキテラスを設けました。園庭での遊ぶ時の休憩スペース、雨天時の遊びのスペースなど建物と園庭が一体となり、多様な遊びを誘発する空間となればと考えます。
- 屋外は多様な遊具や運動用品を収納する倉庫と、園庭用男子便所、女子便所と一体として整備します。

③ 中高生の様々な活動を想定した多目的集会室

- 中高校生のバンド練習場としての利用のため遮音仕様とします。両側に倉庫、便所を配置、両側の複層ガラスの窓の内側にインナー建具を加えて入口二重扉とし、内装には吸音処理を施します。
- ヨガやダンス教室利用を考慮し片面鏡張りとします。
- 映画会、音楽鑑賞利用を考慮し、スクリーンやプロジェクターなどの音響映像装置(移動式)も完備します。

④ 事務室は全体を管理できる位置としました

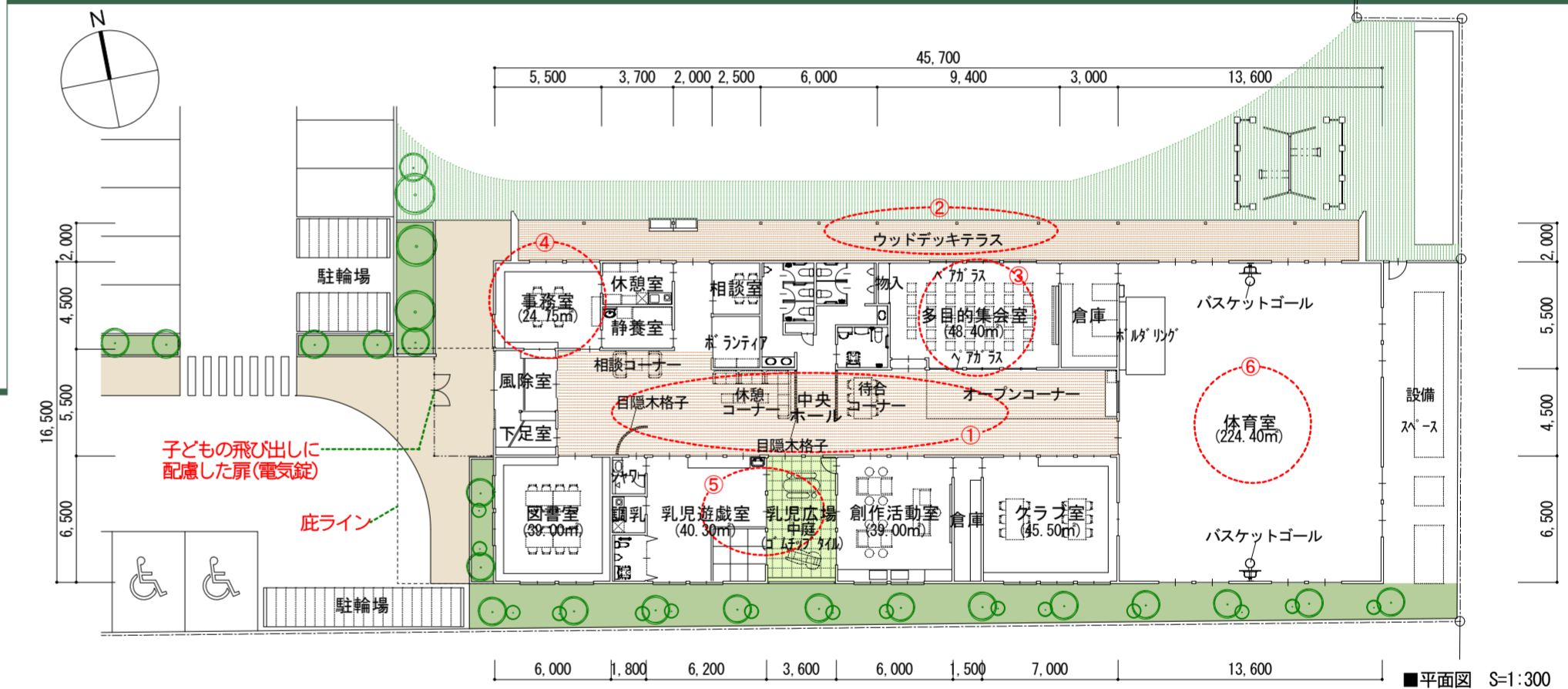
- 事務室は主入口、園庭、テラス、中央ホールが見渡せる位置で、かつ来館者の対応が容易にできる位置としました。職員更衣室、休憩室、来館者の静養室を隣接させました。

⑤ 乳児と母親のための専用スペースを設けます

- 床はフローリング仕上の一部にほふくのための畳コーナーを設けます。
- 乳児用便所、哺乳室、シャワー室(廊下からも利用)及び屋外広場を隣接させ、専用空間とします。
- 創作活動室及び廊下から内部の様子が見渡せる構成とします。
- 子どもらしい内装材を多用した空間とします。

⑥ 軽運動ができ多様な遊びができる体育室

- 多様な遊びのため天井高をH=6m確保し、バスケットゴールを両側に取り付けます。
- 壁の一面にボルダリングコーナーを設けます。又、ボール遊び時の防球ネット、ガラス窓の防球格子(内側なども考慮した)を施した内部空間とします。



■事務室より風除室



■乳児遊戯室



■多目的集会室



■体育室



■構造・環境計画

